

竹林塗装工業株式会社

2019年度環境活動レポート

(対象期間:2019年 2月~2020年 1月)



作成日： 2020年2月15日

竹林塗装工業株式会社

環境方針

地球温暖化や環境問題が会社経営の重要課題との認識にたち、建築物の塗装工事、防水工事及び建築改修工事の事業活動における環境負荷の低減を図るために、業界・団体とも連携し、全社一丸となって自主的・積極的に、環境保全活動に取り組みます。

<環境保全への行動指針>

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 次の事項について環境目標・活動計画を定め、継続的な改善に努めます。
 - ①電力及び燃料の二酸化炭素排出量の削減（低炭素社会への対応）
 - ②廃棄物排出量の削減及び再資源化の推進（循環型社会への対応）
 - ③水道水使用量の削減（水資源の保全）
 - ④化学物質の使用削減に努めます。
 - ⑤環境に配慮した製品・資材の購入を推進します。
 - ⑥環境に配慮した製品の施工工法（遮熱塗装等）を推進します。
3. 環境への取り組みを環境活動レポートとしてとりまとめ公表します。
4. この環境方針は、全従業員に周知・徹底します。

制定日：2011年10月11日

改定日：20 年 月 日

代表取締役社長

竹林正清 

□組織の概要

(1) 名称及び代表者名

竹林塗装工業株式会社
取締役社長 竹林 正浩

(2) 所在地

本 社 大阪府大阪市淀川区新北野1丁目12番2号

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 井上 博俊 TEL : 06-6301-9281
事務局 清水 満

(4) 事業内容

建設・塗装・防水工事業

(5) 事業の規模

	本社
従業員	24名
延べ床面積	201.04m ²

(6) 事業年度

2月～1月

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名 : 竹林塗装工業株式会社

対象外 : なし

活動 : 建築物の塗装工事、防水工事及び建築改修工事の施工

□主な環境負荷の実績

項目	単位	2017年	2018年	2019年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	141,132.1	125,583.0	123,896.9
廃棄物排出量	トン			
一般廃棄物量排出量	トン	1,416	1,410	1,014
産業廃棄物排出量	トン	28,400	21,900	30,900
総排水量	m ³	270	265	291

(混合廃棄物+廃油)

※電力の二酸化炭素排出量換算係数 0.574 (kg-CO₂/kWh) auでんき(平成30年度)

□環境目標及びその実績

項目	年度	基準値	2019年		2020年	2021年
		(基準度)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	6,957	6,922	12,462	基準再設定	基準再設定
	基準年比	(2017年)	99.0%	179%		
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	54,477	54,204	54,886	54,204	53,932
	基準年比	(2017年)	99.0%	101%	99.5%	99.0%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	61,434	61,126	67,348		
一般廃棄物の削減	kg	1,416	1,402	1,014	1,012	1,005
	基準年比	(2017年)	99.0%	72%	71.5%	71%
混合廃棄物の削減	kg	7,600	7,524	11,600	7,486	7,448
	基準年比	(2017年)	99.0%	153%	98.5%	98%
廃油の削減	kg	20,800	20,592	19,300	20,488	20,384
	基準年比	(2017年)	99.0%	93%	98.5%	98.0%
節水	m ³	288	268	291	288	288
	基準年比	(2017年)	93.1%	101%	100%	100%
製品への環境配慮の推進	%		—	84.3%	85.0%	85.5%
	基準年比	(2017年)		100%	105.0%	110%

□環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

◎よくできた ○ままできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	次年度	評価（結果と次年度の取組内容）
電力による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標	×	<input type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 <input checked="" type="checkbox"/> 基準見直し	
・不要照明の消灯	△	改善の事	電気事業者の変更に伴い二酸化炭素排出係数が増加したため、新たに本年を基準年として削減に努めていくものとする。しかしながら、電気容量としても基準年の数値を超過しているため、削減方針としては当初設定している消灯などの対策を徹底していく必要がある。
・昼休みの消灯	×	改善の事	
・空調の適温化（冷房28℃、暖房20℃）	△	改善の事	
・使用していない空調の停止	○	強化	
・季節における軽装、重ね着の工夫	◎	継続	
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標	×	<input type="checkbox"/> 上方修正 <input checked="" type="checkbox"/> 下方修正 <input type="checkbox"/> 基準見直し	
・エコドライブの励行	○	強化	遠方現場が増加し、対策の策定が急務である。現地でのレンタカーの採用や公共交通機関の励行など実施のこと
・共積み、相乗りの励行	△	強化	
・公共交通機関の利用の励行	△	強化	
一般廃棄物の削減			
数値目標	○	<input checked="" type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 <input type="checkbox"/> 基準見直し	
・裏紙使用	○	継続	書類の直し、簡素化を進め、極力社内のペーパーレス化を進めること。また、不要な印刷を無くすよう意識改革
・資料、書類の簡素化	△	強化	
・会議資料のペーパーレス化	△	強化	
産業廃棄物（廃プラ・廃油）の削減			
数値目標	○	<input checked="" type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 <input type="checkbox"/> 基準見直し	
・残余資材の再利用	○	継続	廃棄物削減は概ね良好。廃油については現場管理の徹底にて削減励行
・資材発注時のチェック	△	継続	
・工事に合わせた施工方法の選定	○	継続	
節水			
数値目標	△		現状維持
・資機材の現場での洗浄の促進	○	継続	自動水栓を導入したため、それ以外の部分での使用水量の削減に努めること。
・節水シール貼付とポスター掲示	×	強化	
製品の環境配慮			
数値目標			
・水性塗料等の優先的な使用	○	継続	現場への積極的な提案により、更なる水性化を励行する。
社会貢献			
・周辺道路の清掃活動	◎	継続	本社周辺の清掃活動は継続され、良好な状態に保たれている。長時間の放置車両もなく、今後とも継続のこと。

□主な環境関連法規制

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（廃油等）
Nox・PM法	営業用車両、トラック
消防法（危険物）	溶剤の保管

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し

二酸化炭素排出量については概ね良好な結果と言えるが、当の二酸化炭素排出量については多く対策を打つ必要がある。電力については基本的なルールの徹底と、排出係数に対する検討、ガソリンについては遠方現場に対してレンタカーの利用や公共交通機関の利用。またエコカーの導入なども検討しなければならない。また、廃油の廃棄についても奨励策は実施しているものの、増減の繰り返しであり、劇的な効果はいまだ見られない。社員や塗料を直接扱う下請け業者からも意見聴取を行い、実効的な対策の検討も必要である。

□環境活動の紹介

- ・周辺道路の清掃活動